

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4073600282		
法人名	有限会社 ステップ		
事業所名	りびんぐ 紀水庵 (西棟)		
所在地	福岡県古賀市小山田497番地1		
自己評価作成日	平成22年5月14日	評価結果確定日	平成22年6月4日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kohyo.fkk.jp/kai_gosi_p/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ヘルスアンドライツサポートうりずん
所在地	福岡県直方市知古1丁目6番48号
訪問調査日	平成22年5月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

敷地内には、四季折々に咲く花が目を楽しませ、季節の香りを運んでくれます。また、小鳥のさえずりや山菜取りを楽しめる山、野花や景色を眺めながらの散歩など、自然環境に恵まれたグループホームです。
その人らしく暮らしの継続ができるよう、「尊厳と安全を守り、共に楽しみ、ゆったりと過ごす」という介護理念をかかげ、ご本人の視点で考えていくケアを行っています。専門性を高めるため、毎月の勉強会を職員主体で行い、常に質の向上を目指して入居者様と共に生活しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

ユニット/
事業所名

りびんぐ 紀水庵（西棟）

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	日常的に散歩や買い物、地域の行事への参加している。「地域の中でその人らしく暮らす」と言う普通の事を職員が認識し実践して行くため、介護理念を全職員でつくり、また、普段からミーティング等で「地域との交流」について話し合っている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	開設より、地域の一員として交流に努めている。毎年、地域の子供たちの獅子舞やマンドリン演奏会など訪問して頂いている。また、区主催の夏祭りに参加している。クリーンデーや消防団の活動等に参加出来るよう、働きかけを行っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	開設より、ホームが構築してきた認知症に関する知識や実戦経験を地域に還せるよう地域の研修会に参加したり、発表の機会を得るよう働きかけを行っている。また、随時ホーム見学や介護相談を受けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族は全員運営推進委員になって頂き、行政や地域等の方々に参加頂いている。会議では、外部評価の結果報告や紀水庵の取組み、改善計画の実施状況について報告し、意見や助言を頂いている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進委員として、参加時には助言を頂いたり、講師として介護保険等の勉強会をして頂いている。また、毎月介護保険課の窓口に出向き情報交換を行っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する勉強会を実施し、個人の尊厳のある自由な暮らしの大切さを職員に周知し、徹底理解を図っている。また、拘束の必要性がある場合には、その根拠と方法、期間等をご家族に説明し承諾して頂き、改善に向けた取り組みを行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	接遇や身体拘束について勉強会を実施し、高齢者虐待防止関連法や事例を通じて理解を深め入居者様や高齢者等の尊厳の大切さを学んでいる。また、職員間で注意を払い、防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際に利用されている入居者様がおられ、関わりながら内容や必要性を勉強し、職員間で理解を深め、ご家族にも制度の必要性を説明している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前に、利用内容や重要事項について説明している。特に転倒に対するリスクや身体拘束に関する考え方、ターミナルケア含めた医療連携体制について行い、ご家族等の同意を得てから契約している。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様の言葉や態度からその思いを察する努力をし、意見や要望等は、随時話し合い、特定の職員の中に埋もれさせないようにしている。ご家族の訪問時には、積極的にコミュニケーションをとり、話し易い雰囲気をつくりを行っている。また運営推進会議等や意見箱等より要望や意見等を伺い運営に反映させている。		
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、日常的に職員とコミュニケーションを図っている。運営や業務に対する意見や要望がないか、問いかけたり聞き出す工夫をしている。また、月に1回の運営会議や各棟のミーティングに参加している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の処遇改善のため基本賃金の改定や増員を図り、勤務状態や状況に応じた手当の支給を行っている。また、技能の向上等を図り、職員の意見を取り入れながら職場環境の整備に努めている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	募集に際して性別、年齢等の制限は設けていない。職員の得意な事をホームの活動に活かしている。職員の研修会等へ参加出来るよう勤務調整を行っている。ホーム内に行事・食事委員会、研修委員会、環境整備・管理委員会を設置し、職員に役割・責任を担ってホーム運営に参加してもらっている。		
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	定期的な会議や研修の場で、人権を尊重すること、および実践としての言動の留意点を具体的に話している。また、契約書への記載や事務所に掲示して啓発に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月、殆どどの職員が参加する勉強会を開催し、日々、体験の場でトレーニングを積み上げている。外部研修を受講した職員は、伝達を行い他の職員と共有出来る仕組みをとり、技能の向上に繋げている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	福岡県GH協議会及び古賀地域支援連絡会「もちもちの会」。古賀市GH連絡会「ひだまりの会」に所属し、地域の医療・福祉事業所との交流を図り、情報の交換や勉強会等を行いサービスの質の向上に努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族等から入居の相談があった時点で、必ずご本人にお会いしご挨拶や世間話からコミュニケーションをとり、何が大切で何を求めているのか、表情や態度を見逃さず、ご本人の思いと向き合うようにしている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族からの、これまでのご苦勞や胸にためている思いを時間をかけて傾聴し、関係づくりに努めている。また、相談を重ねて行く中で状況の把握を行っている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族からの情報やご本人の状態から、必要としている支援が何かを見極め、地域包括支援センターや他の事業所の紹介やサービス利用を含めた迅速な対応に努めている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の全てにおいて、入居者様の尊厳を守り人生の先輩として教わる事も多く共に生活して行く中で励まして頂く事もある。入居者様は、職員を癒して下さる力を持っておられ感謝する関係性が築かれている。		
21		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	遠方でないご家族はよく来訪して下さる。ご家族に日頃の状況や様子を説明したり、ご本人を交えて話したり、職員の思いも伝えられている。ご本人の誕生日会やイベントには参加して頂き協力関係が築かれている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前の生活習慣を大切にし、かかりつけ医の受診や理美容院の利用を支援している。利用し慣れたお店への買い物や友人等の来訪時にはお茶等をお出して訪問し易い雰囲気づくりを心掛けている。		
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は入居者様の個性や相性等を考慮し、リビングでの席順や買い物、行楽、イベント等の同行メンバー等工夫している。また、職員が個々に対応する事により、入居者同士の関係の構築を行っている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院のまま退居になられた方や新しい住居に移られた方等、時折、職員が訪問したり、ご家族への手紙を出す等して関係を大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その人らしく生活して頂く為に日々の関わりの中で行動や表情から真意を汲み取る努力をしている。「センター方式」によるアセスメントによって、ご本人の暮らしの希望や意向を理解する為アプローチを丁寧に行っている。		
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族にホームでの生活するうえで、これまでの生活歴等の把握の大切さ説明し、「センター方式」に分かる範囲で記入して頂いている。また、ご家族の了承のもと、サービス担当者等から情報を収集している。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	表情や小さな動作を見逃さず、出来る事。分かる事。を発見する事に努めている。発見した事を全職員で共有し、毎月のアセスメントにより、ご本人の全体像の把握に役立っている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人の望む暮らしとご家族の気持ちを日頃の関わりの中で知り、ご本人の視点にたったアセスメントを行ない、理念に繋がるケアプランを作成している。毎月のモニタリングやケアカンファレンス等を担当職員を中心に全職員で行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者様の状況や変化、それに対する職員の対応や考察をカンファレンスやご家族との話し合いを基に個別に記録し、介護計画の見直し情報の共有を行っている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療連携体制を活かして入居者様の負担となる受診や入院の軽減を図っている。また、入居者様、ご家族の状況、その時々ニーズに柔軟に支援対応出来るよう努力している。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居者様が安心して地域での暮らしが継続出来るよう、警察署や消防署、行政等に定期的に訪問し協力や相談等を行っている。また、運営推進会議にご家族や地域の消防団、民生委員等の参加をお願いし協力関係の構築を行っている。地域のお祭り等に積極的に出かけ日常的に地域の方とお話をしている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族の希望を大切に納得が得られるかかりつけ医とホームの関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している。また、受診時はホームでの生活で留意点等必要な情報をお伺いしたり、こちらの生活情報等必要な場合、書面を作成もしくは、同行しお伝えしている。		
33		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は、入居者様の普段と違う些細な表情や体調やの変化を見逃さないよう努力しており、気づきがあれば直ちに職員間で情報を共有し、同時に訪問看護師等に連絡相談を行ない適切な受診等を受けられるよう支援している。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入居者様が安心して治療出来るよう、ダメージを極力防ぐ為病院関係者やご家族と情報を共有し速やかに退院に結びつくよう支援を行っている。入院時、職員は2～3日おきに面会に行きご様子を見舞っている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末に対する対応指針を大まかに定め、重要事項説明書に記載し、事業所が対応できる最大の支援方法をご本人及びご家族に説明している。その時々状況や状態に応じご本人及びご家族・医師・看護師等を交え方針を決定している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署の協力を得て、応急手当や心肺蘇生の実技研修を行っている。また、夜間等の緊急対応について職員で話し合い、マニュアルを作成し勉強会等を通じ周知徹底を図っている。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	昼夜の火災を想定した避難訓練を年2回実施し、体験、習得に努めている。粕屋北部消防署の協力により、AEDの使用方法や心肺蘇生等の救急救命講習を行っている。また、ご家族や地域の自治会、消防団へ災害時の協力依頼を行っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	介護においてまず第一にご本人様の気持ちを大切に「こころとからだにやさしいケア」を行っている。入居者様の個人情報、守秘義務を理解して取り扱いと管理を徹底している。		
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	接する際、急がずような事はせずに時間をかけてコミュニケーションを行っている。些細な事でもご本人の希望を聞いてご本人が自己決定出来るよう努めている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床・就寝・食事等ホームのスケジュールを優先せず、入居者様のペースに合わせている。その日、その時のご本人の気持ちを尊重しながら個別性のある支援を行っている。また、買い物や散歩等、おひとりお一人の状態や思いに配慮しながら柔軟に対応している。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お一人ひとりの生活習慣に合わせた支援を行い、日頃から化粧やおしゃれを楽しんでもらえるよう取り組んでいる。ご本人の馴染みの理美容院でカットやパーマをしてもらっている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様と職員と一緒に調理、盛り付けを行ない楽しみ作りを大切にしている。入居者様と一緒に同じ食事を摂り、喜びや楽しみを共有できる雰囲気作りをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者様おひとりお一人に対しての食事量と水分量を把握し、毎食ごとに確認表に記録している。咽たり、飲みこみが悪い方には、トロミを付けて食べ易いよう工夫している。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食時に、口腔内を綺麗にして入居者様にリフレッシュして頂いている。状況に応じて職員が介助見守りを行っている。定期的に義歯洗浄を行い、歯科の往診を受けている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	入居者様おひとりお一人の排泄状況を把握し、さり気なく声かけしトイレ誘導を行い、排泄をして頂いている。オムツ等可能な限り使用していない。		
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の予防として、各入居者様の一日の水分摂取量を目安に飲んで頂いている。自力排便が出来るようオリゴ糖入りの牛乳等を飲んで頂いている。便秘の方の下剤の調整もしている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	状態、状況に応じて入居者様おひとりお一人に入浴して頂いている。好まれない方には、声かけ工夫など、職員の連携により対応している。場合によっては足浴、清拭のみ行っている。		
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者様の生活習慣やその時の状態・状況に応じて日中の適度な活動やコミュニケーションを図り、生活リズムを整えると共に就寝に向けた穏やかなリズムがつけられるよう取り組んでいる。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	毎食ごとに分包している。服薬時は、ご本人に手渡し服用の確認をしている。服用が困難な場合は水に溶かして飲んで頂く。薬の処方が変更になった場合は記録し伝達する。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様のできる事・できそうな事、趣味や楽しみを把握し、動機づけや共同作業を通じて食事づくりや掃除、買い物等お一人お一人の力を発揮してもらえよう仕事を頼み感謝の気持ちを伝えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	おひとりお一人のその日の希望に沿って外出を考え、職員がその日の天候や入居者様の状態を考慮しお誘いし、散歩や庭でお茶を飲んだり、ドライブ等外出している。買い物や理髪、受診や自宅訪問、行楽等日常的に出かけている。		
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭を自己管理されている方もおられるが、その他の方についてはご家族と相談し、財布をお預かりしている。買い物等に行った時、財布を渡し、好きなものを選んで頂いたり、実際に金銭のやり取りをして頂いている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者様の希望に応じて、日常的に電話を掛けられるようにしている。また、他者様に聞こえない所に電話を設置している。年賀状等の支援も行っている。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	定時のラウンド時に、におい・音・ひかり・換気等について、リビングやトイレ・廊下など職員が確認している。入居者様と一緒に昼ご飯を作ったり、廊下やリビング等には、絵画や創作物、カレンダーや入居者様の置物を配置し季節を感じたり、心が落ち着くような雰囲気づくりを行っている。		
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂のテーブルが4つに分かれており、気の合った入居者様ごとに分かれている。また、廊下のソファや玄関の腰掛、庭のテーブルセット玄関外のベンチなどに観葉植物や絵画を配置し、入居者様が思い思いに過ごせる空間を用意している。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様の馴染みのあるタンスや置物、テレビ等使用されていた物を出来る限り持って来て頂くようしている。また、小物や葉書等ご家族に継続的に持って来て頂いている。入居者様が居心地良く生活できるようご本人とも相談しながら工夫している。		
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者様の生活の中で分かりにくい事に対してはアセスメント表を作成し状態を把握している。状態の変化が生じた時はカンファレンス等で話し合い対策を検討している。		